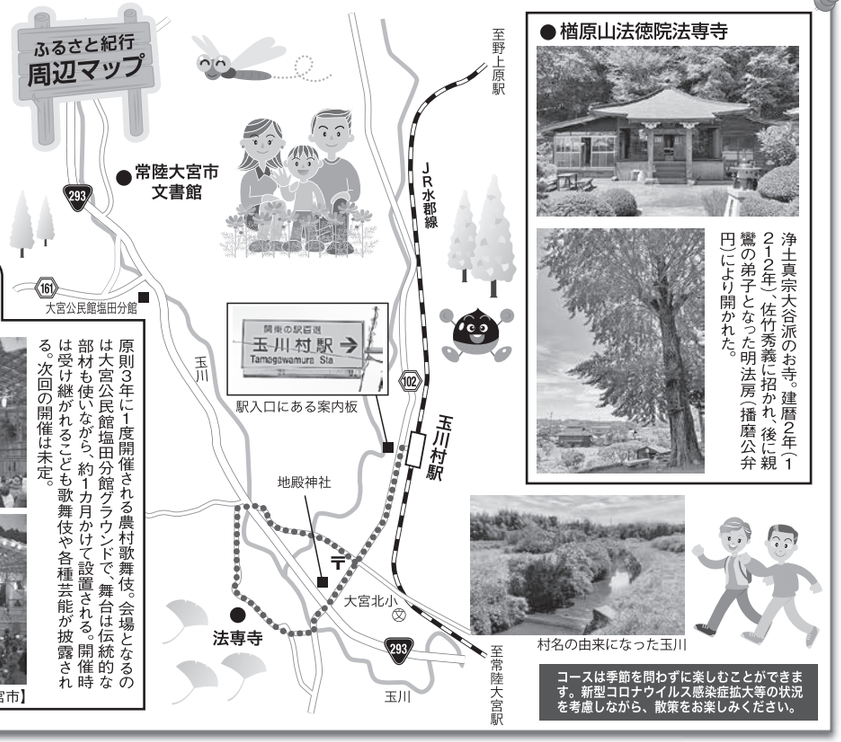
●常陸大宮市文書館

平成26年、廃校を利用して開館。重要な歴史的公文書や地域資料を守り、市民や行政に活用されることを目的とする施設。

ふるさと紀行 周辺マップ



●楢原山法徳院法専寺

浄土真宗大谷派のお寺。建暦2年（1212年）、佐竹秀義に招かれ、後に親鸞の弟子となった明法房（播磨公弁円）により開かれた。

コースは季節を問わずに楽しむことができます。新型コロナウイルス感染症拡大等の状況を考慮しながら、散策をお楽しみください。

茨城県指定文化財　有形民俗文化財

西塩子の回り舞台

「回り舞台のタベ」

「回り舞台の夕影」

【写真提供:常陸大宮市】

原則3年に1度開催される農村歌舞伎。会場となるのは大宮公民館塩田分館グラウンドで、舞台は伝統的な部材も使いながら、約1月かけて設置される。開催時は受け継がれることも歌舞伎や各種芸能が披露される。次回の開催は未定。

●散策コース●

玉川村駅から県道102号線を通って南に向かう。国道293号との交差点付近には地殿神社がある。

県道102号線をさらに進むと小さな橋があり、その下を流れるのが村名の由来になった玉川。玉川は流路延長16.2kmの久慈川の支流で、火打ち石の材料にもなる瑪瑙（メノウ）が採れる川として知られる。橋を越えると法専寺の看板があるので、お寺を目指そう。美しい自然に抱かれた法専寺の門前には畑があり、菜の花や蕎麦が植えられる。境内には鐘楼や樹齢数百年の大銀杏がある。お寺を開いた親鸞聖人の弟子・明法房（みょうほうぼう）は播磨公弁円（はりまこうべんねん）の名でも知られ、平清盛の孫と言われており、平家滅亡後は山伏として信仰を集めた。親鸞が笠間市の稲田で布教を始めると、自らの勢力を脅かす存在として襲撃するが、親鸞の教えに感銘して弟子となった。法専寺から車で5分ほどの場所には明法房の墓もある。

時間が許せば国道293号を北上して塩田方面まで足を伸ばしたい。西塩子は、200年の歴史を持つ日本最古の組立式農村歌舞伎舞台「西塩子の回り舞台」で有名な地域。北塩子には廃校を活用し、地域資料や歴史的公文書などを所蔵する、県内初の市町村立文書館「常陸大宮市文書館」がある。

●お問い合わせ／常陸大宮市産業観光部商工観光課☎0295（52）1111（代）　●企画・制作／読売茨城広告社☎029（244）5555

Vol.126

駅からのふるさと紀行　JR水郡線

玉川村駅（たまがわむら）

常陸大宮（ひたちおおみや）｜野上原（のがみはら）

●次回は10月23日掲載予定です。

※イラストはイメージです。

●道の駅常陸大宮～かわプラザ～

平成28年3月のオープン以来、常陸大宮市の魅力や情報を発信。農園や公園、バーベキュー施設、イベント広場などがあり、久慈川の川辺まで散策することもできる。

働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215

https://www.ibaraki-isuzu.co.jp

広告

●平成8年に完成した駅舎

●木の温もりを感じる駅名板

●ホームは2面2線

山小屋風の駅舎が自然に溶け込む 駅名が旧村名を今に伝える

JR水郡線玉川村駅は、水郡線が常陸大宮駅から山方宿駅まで延伸された大正11年に誕生した。駅名は当時の村名が冠せられた。村名は駅の西側を流れる久慈川の支流・玉川に由来する。玉川村は昭和30年の合併で大宮町（現常陸大宮市）になった。

駅周辺はゴルフ場も多い緑濃い場所。木造平屋建ての山小屋風の駅舎が周囲の自然に溶け込む。現在の駅舎は平成8年に改築されたもので、「玉川村駅交流センター」が併設され、図書館もある。ホームは2面2線の相対式で、ホーム間は野上原駅側にある跨線橋で結ばれている。駅の西側には引込線が今も残り、貨物を取り扱っていたころを偲ばせる。

駅の西側には県の有形民俗文化財に指定されている農村歌舞伎の「西塩子の回り舞台」で知られる西塩子地区があるなど、独特の文化を持つ地域でもある。